

2020年 2月度 売上速報

■ 百貨店事業

阪急阪神百貨店	売上高前年比(%)
阪急本店	81.9
阪神梅田本店	80.1
支店計	135.8
全店計	98.2

※神戸阪急、高槻阪急は本年実績のみ。

○ 全店の概況

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で入店客数・売上高ともに大幅に減少した。既存店売上高前年比86%。
- ・ インバウンド売上は、春節期間が1月に前倒した影響も加わり、大幅に減少した結果、売上高前年比32%。
- ・ 国内売上は、外出の手控えや通勤客の減少などにより、売上高前年比92%。消費マインドの回復が見られた1月から一転し、新型コロナウイルスのマイナス影響を受ける結果となった。特に、60代以上の高齢者や子供連れファミリーの来店減少が目立つ。
- ・ 店舗の立地別状況では、都市型店舗への影響が大きく、売上高前年比83%。一方、食品シェアが高く、都心への外出手控えの代替となっている郊外型店舗へのマイナス影響は少なく、売上高前年比97%。
- ・ 支店は既存店12店舗のうち6店舗が前年を上回り、特に改装効果の高い高槻阪急は、入店客数増により売上高が順調に推移し、4ヶ月連続で前年を上回った。

○ 阪急本店の概況

- ・ インバウンド売上は、化粧品など消耗品に対するマイナス幅が大きく、売上高前年比27%。
- ・ 全館的に客数が減少し、入店客数前年比83%。バレンタイン商戦が、期間中の売上高約25億円と過去最高を記録。
- ・ 高額品は、売場改装中による面積減の影響があるものの、外商の富裕層顧客の大口需要が堅調な動き。

※過去1年間の売上高推移

前年比(%)

	2018年度		2019年度											
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
阪急本店	104.7	103.6	104.6	100.4	107.6	103.8	106.7	129.5	84.2	94.1	94.5	98.6	81.9	
阪神梅田本店	96.9	89.9	84.9	100.5	79.1	95.9	96.4	121.7	84.9	93.4	94.2	97.5	80.1	
支店計	97.2	99.9	101.2	99.7	102.0	97.9	97.8	107.2	124.7	133.7	136.1	132.1	135.8	
全社計	101.2	100.7	101.0	100.2	101.8	101.0	102.5	121.3	97.5	107.4	108.0	110.2	98.2	
既存店計※										85.5	94.6	95.4	98.2	85.7

※神戸・高槻阪急を除く

■ 食品事業

イズミヤ	売上高前年比(%)	阪急オアシス	売上高前年比(%)
全社計	100.5	全社計	103.0

★数値は速報値のため、確報値とは誤差が生じることがあります。

<本件に関するお問合せ先>

エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社 広報室 TEL:06-6367-3181